

性暴力について考える公開講座

「性暴力」というと

ある日突然、見知らぬ人から受けるレイプを思い浮かべる方が多いと思います。

しかし、性暴力にはさまざまなかたちがあり、身近な問題です。

心身ともに深い傷を受け、多くの方がそのことを誰にも言えず苦しい思いのまま日々を過ごしています。

性暴力について考えてみませんか・・・。

テーマ

「性暴力について考える」

～性暴力とは、被害者支援の必要性、被害者支援のあるべき姿など～

◆講演

さわらぎ けいこ

○講師：榎木 京子 さん（NPO法人博多ウイメンズカウンセリング理事）
演題「夫婦間の性暴力」

くどう ちえ

○講師：工藤 千恵 さん（性暴力サバイバー）
演題「過去とともに生きるということ
～性暴力サバイバーの戦いと回復～」

なかじま さちこ

○講師：中島 幸子 さん（NPO法人レジリエンス代表）
演題「性暴力 その後を生きる」

◆シンポジウム

かたぎり ちえこ

○コーディネーター：片桐 千恵子 さん（博愛病院 産婦人科部長）
○パネリスト：榎木京子さん、工藤千恵さん、中島幸子さん

日時：平成29年2月10日（金）13:00～15:45（開場12:30）

会場：米子全日空ホテル 大宴会場「飛鳥」

（米子市久米町53番2号 電話：0859-36-1111）

入場無料 ※事前申込みが必要です。また、駐車場に限りがあります。公共交通機関を利用ください。

【お問合せ・申込み先】 鳥取県性暴力被害者支援協議会

電話/0857-26-7187

E-mail/jimukyoku@sar-tottori.org

主催：鳥取県性暴力被害者支援協議会

共催：鳥取県、鳥取県警察、公益社団法人とっとり被害者支援センター、公益社団法人鳥取県医師会、
鳥取県弁護士会（予定）

◇鳥取県の性暴力被害

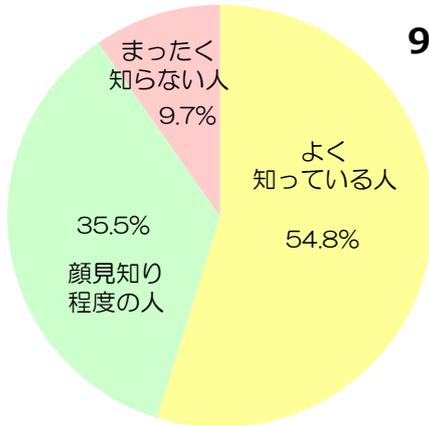
区分		(%)	
		鳥取県	全国
異性から無理やり性交された経験		6.0	6.5
被害を受けた方のうち			
加害者との関係	面識のある人	90.3	88.0
	まったく知らない人	9.7	11.1
	無回答	-	0.9
被害について相談したかどうか	相談した	53.1	31.6
	相談しなかった	46.9	67.5
	無回答	-	0.9

○本県では、「性暴力を受けた経験がある人」は6.0%でした。全国では6.5%あり、本県でも全国と同程度の性暴力被害起きていることが推測されます。

○加害者との関係をみると、「面識のある人」からの被害は、本県は90.3%、全国は88.0%と、ほとんど差異は見られません。

○被害について相談したかどうかをみると、「相談した」は本県は53.1%、全国は31.6%と、相談した人の割合は全国に比べ高くなっている。

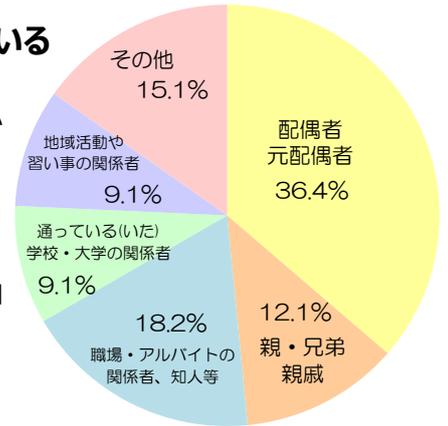
【加害者との面識の有無】



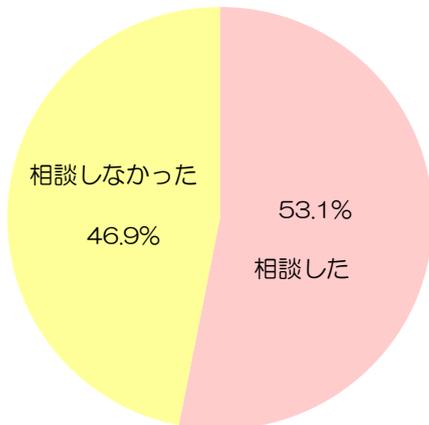
9割の人が面識のある人から被害を受けている

- ・「面識のある人」からの被害は90.3%、「全く知らない人」からの被害は9.7%となっている。
- ・加害者は「配偶者・元配偶者」が36.4%、次いで「職場・アルバイトの関係者」が18.2%、「通っている(いた)学校・大学の関係者」が9.1%、「地域活動や習い事の関係者」が9.1%となっている。

【加害者との関係】



【被害相談の有無】



「被害を受けた人」の半数近くがどこ(だれ)にも相談していない

- ・被害について「相談した人」53.1%、「相談しなかった人」は46.9%となっている。
- ・相談先は「友人・知人」が28.1%、「家族・親戚」が21.9%、「警察」が6.3%となっている。

相談先	(%)
友人・知人	28.1
家族・親戚	21.9
警察	6.3
公的機関	9.4

(複数回答あり)

鳥取県：「平成26年度鳥取県男女共同参画意識調査」(鳥取県男女共同参画推進課)結果より
 全国：「男女間における暴力に関する調査報告書(平成26年度調査)」(内閣府男女共同参画局)結果より

同意のない、対等でない、強要された性的行為は、すべて人の尊厳と人権を踏みにじる性暴力であると位置づけ、性暴力被害にあわれた方が二次被害を受けることなく、安心して心身の回復を図っていただけるよう、被害直後からの相談や医療的支援など必要な支援につなげていきます。

性暴力被害者支援センターとっとり (設置主体：鳥取県性暴力被害者支援協議会)
相談ダイヤル 0120-946-328 (県内専用フリーアクセス)

相談日：毎週月・水・金曜日(年末年始は除く)
 相談時間：11～13時、18～20時